

予算が確定されるまで

(単位:千円)

区分	内容	要求	査定	マイナスシーリングの達成状況の確認	予算額	
① 投資的予算	訴求効果・収益効果・効率性効果を有するもの	各部局は、事業ごとに目指すべき目的・成果に応じ、「投資的予算」「補足的予算」「福祉的予算」に分類し、予算要求を行う。 また、扶助費など市民生活を支えるために必要となる経費を除く前年度予算を基準に、一定比率を縮減する「マイナスシーリング型予算」を導入するとともに、事業実施により見込まれる成果・効果を測定し、「ネヤガワ式予算スケール」による評価を行い、より優先度の高い事業への予算要求を行う。	より質の高いエビデンスに基づいた成果・効果の見通しを検証の上、優先度の高い事業への予算の重点配分を行う。 企画三課長及び経営企画部長のヒアリング並びに財政課長及び財務部長の査定を経て、最終市長査定で決定する。	⇒	12,298,997	
② 補足的・福祉的予算	ア 補足的予算 投資的予算・福祉的予算のいずれにも該当しないもの あればより良いと考えられるもの		細々節単位での、一件査定を行う。特に補足的予算については、より経費節減等の意識を高め、厳しく査定を行う。 財政課長及び財務部長の査定を経て、最終市長査定で決定する。		⇒	76,216,794
	イ 福祉的予算 この予算が無ければ、市民が「通常の生活」を維持できないもの		財政課長及び財務部長の査定を経て、最終市長査定で決定する。		⇒	10,574,209
③ 人件費等	支出が義務付けられている経費	職員給与費担当課は、新年度の必要額を算出し、予算要求を行う。	⇒	⇒		
合計					99,090,000	